（別紙３）

公表

事業所における自己評価総括表(放課後等デイサービス)

○事業所名	社会福祉法人恵友会　こども発達支援センターぴーち			
○保護者評価実施期間	令和6年12月3日		～	令和7年1月17日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	41	（回答者数）	22
○従業者評価実施期間	令和6年12月3日		～	令和6年12月13日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	16	（回答者数）	16
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月19日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
0	多職種連携	なるべく保育士・言語聴覚士・作業療法士・児童指導員と多職種で集団療育に入り、多面的な支援が出来るように意識している。また、発達段階やライフスタイルにあわせて、個別療育なども上手にとりいれながら、ソーシャルスキルの向上を後押ししている。 今年度より看護職員を採用し、服薬管理やインスリン投与を行えるようになった。また2名の職員が喀痰吸引等研修 （3号研修）を修了し、吸引を行えるようになった。	毎月の勉強会や職員会議の中で、それぞれの職種の専門性をチームとして共有していくことで、ひとり一人の職員が視野を広げ、お子さんやお子さんを取り巻く環境を多面的にとらえられるようにしていく。また、日々の活動の中で療育的要素を意識して取り入れていく。 服薬管理やインスリン投与など、今後も継続できるように職員体制を整えていく。
2	保護者支援	ペアレントプログラムやペアレントトレーニング、保護者会、ピアカフェなど、保護者の方が集える環境を作っている。また、モニタリング時期だけではなく、必要な時にはいつでも個別に対面やライン・電話などでタイムリーに相談できる機会を設けている。 保護者向け勉強会などを4月に年間計画として配布し、仕事などの都合をつけやすいように、勉強会に参加しやすいようにしている。	ピアカフェや保護者会の機会を増やし、気軽に相談できる場所の確保や兄弟児支援につながる企画を検討していく。 平日開催しかしたことがないので、今後土曜日開催も含め、検討していく。
3	学校との連携	直接お子さんの支援に携わっている職員が学校まで迎えに行っているので、発達段階や課題をその都度学校とも確認しあい、連携した支援に繋がっていると思う。教育委員会の就学支援会議などにも参加しているので、適切な進路選択の補助も行えていると思う。	学年・学校が上がる際に、それぞれのお子さんの将来を見据え、就学支援会議などで軌道修正できるように教育委員会や学校と更に連携を深めていく。 たくさんの職員が送迎に関わっているので、情報共有と職員の質の向上を図り、適切なやりとりができるようにしていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	定員オーバー	定員10名のところ、R7.2時点で73名の登録児童がいるので、利用の申し込みがどうしてもあふれてしまい、利用調整しきれていない。他事業所との併用や利用日数の削減を保護者に協力依頼することも多く、そこが課題となっている。	職員体制をどれだけ整えられるか、療育の必要度合いに応じて、相談支援員と連携して利用調整していくことが可能なのかを試行錯誤している最中である。
2	職員の質の確保・向上	毎月職員会議・施設内勉強会を設け、知識や情報の更新や吸収を意識して行っている。また、外部の研修にも参加できる機会を確保し、参加した職員から伝達研修を行ってもらうことで、知識や情報の共有もできるように意識している。	毎年新しい職員も入ってくるので、職員の研修体制や1オン1などを取り入れ、自己研鑽が継続できる体制を整えていく。 また、数年後のキャリアプランを各職員が描き、そこに向かって自ら学んでいけるように環境を作っていく。
3	地域のなかでの交流	福祉まつり参加やリンゴ狩り・LRT乗車などのレクリエーションを盛り込むことで、なるべく地域の中に出かける機会を作っている。ただ、新しい場所やいつもと違った活動を苦手とし、パニックや自傷行為につながるお子さんも多いので、なかなか難しい現状がある。	地域の行事などに参加する機会を設け、生きる世界がひろがっていくように少しずつ働きかけていく。また、将来グループホームで生活する子もいると思うので、電車の乗り方や公共マナーの獲得など、日常生活動作も向上できるように促していく。